

世界的に「洗牌(再編)」が進む石油化学工業界 —再編の先に商機を見出す中国—

<エグゼクティブサマリー>

- 石油化学業界では、世界的に事業再編が加速している。欧米企業は旧来事業の整理・人員削減を進め、ハイエンド・高付加価値分野への集中を図っている（ダウ・ケミカル、BASF など）。一方、アジア・中東では韓国・LG 化学の電池材料シフト、日本・三井化学など 3 社のポリオレフィン事業統合、サウジ・SABIC の高機能素材投資と欧州撤退が進行中だ。
- こうした中、中国はむしろ外資誘致を強めており、BASF の湛江プロジェクトやダウの張家港投資が稼働している。融達期貨の韓冰冰アナリストは、①産業の中心の東アジアへの移行、②技術・原料・生産能力の分業化の進展、③規模から技術・競争への競争軸の変化を指摘。中国は新エネルギー・半導体分野の成長を背景に、外国企業が「中国で生産・消費完結」するモデルへ移行していると分析する。
- 一方で『石油報』は、欧米・中東のハイエンド・グリーンシフトにより競争が激化すると警告。中国自身も技術イノベーションと産業チェーン全体の連携強化が求められている。



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。

お申し込み後、続きをご覧くださいための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、

下のボタンから続きをご覧ください。

[続きを読む](#)

◆情報提供サービスのお申し込みはこちら >

◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください >